

令和6年度 第4回長浜市市民協働推進会議 次第

（令和6年10月3日（木）午後1時30分～
長浜市役所本庁舎5階 5-A会議室）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）市民協働推進計画の改定について

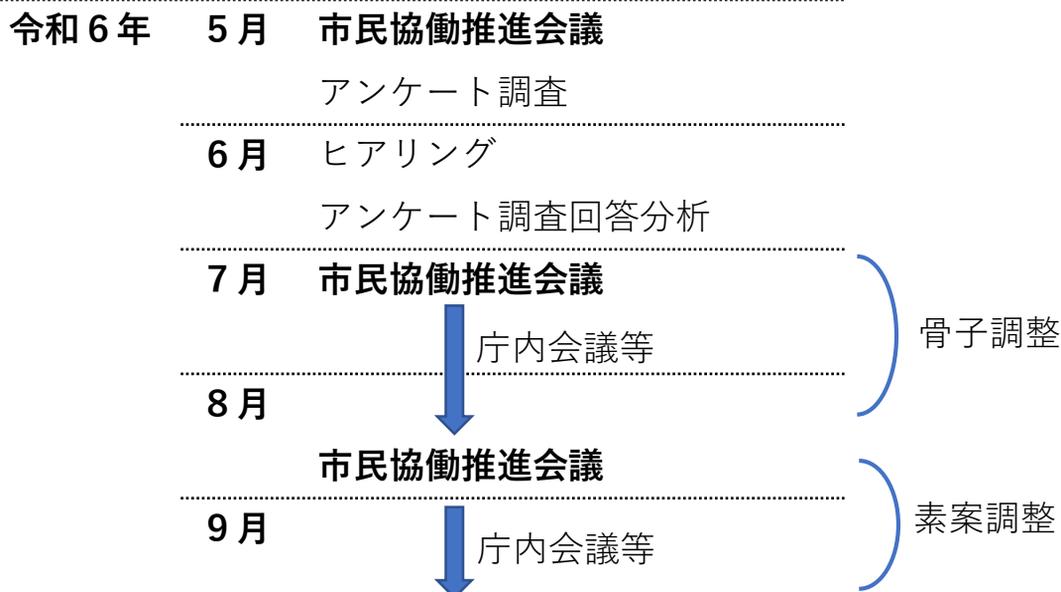
【資料1・2・3】

4 その他

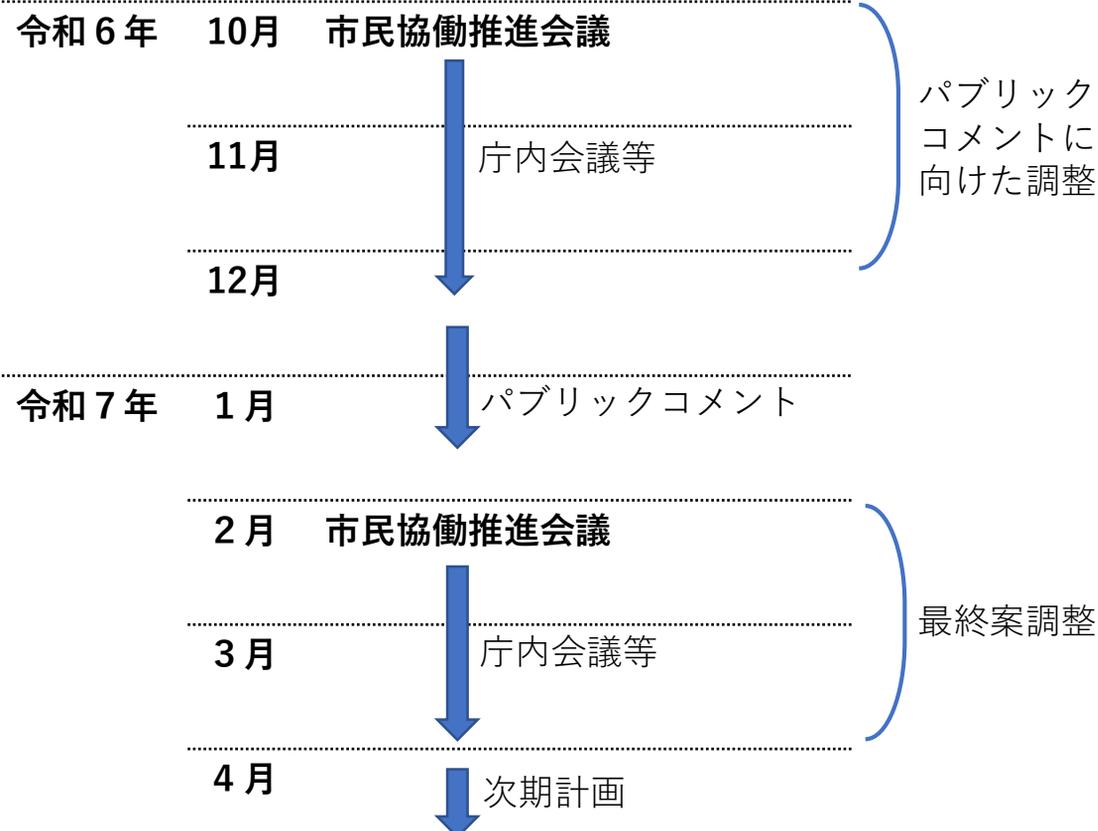
5 閉 会

長浜市市民協働推進計画の改定について

これまでの経過



今後のスケジュール



長浜市市民協働推進計画（案）の概要

協働とは

協働とは、様々な主体が共通の目的に向けて、対等な立場で互いを尊重し、役割分担して共に取り組むこと

策定趣旨

- 人口減少や少子・高齢化の急激な進展、デジタル化の加速など、社会状況が大きく変化する中で、働き方や暮らし方など価値観が多様化しており、地域課題も多様化・複雑化
- 長浜市では、令和2（2020）年に11.4万人であった人口が、令和32（2050）年に8.2万人まで減少する見込みで、特に生産年齢人口が大きく減少する見込み
- 今後、人口が大きく減少していく中で、これまでの制度や仕組みが機能しなくなることが予想されるため、既存の制度や仕組みからの転換が求められている
- 様々な地域課題を解決し、持続可能で活力ある地域社会を実現するには、多様な主体がまちづくりに関わり、協働していくことが必要

計画期間

令和7（2025）年度～令和11（2029）年度

各主体の現状と課題

- 市が各主体に実施したアンケート調査から、地域への愛着や親しみを感じている市民は多く、地域の活動にも積極的に協力している一方で、担い手不足や高齢化、負担の偏りなどの現状があり、担い手不足が深刻化
- 各主体が抱える課題を整理すると次のとおり

| 区分 | 主な課題 |
|----------|------------------------------|
| 市民 | 負担の分散化、活動の広がり、一人ひとりの地域への関心向上 |
| 地域づくり協議会 | 人材の育成・確保、住民への意識啓発、活動資金の確保 |
| 自治会 | 役員の確保、活動の簡素化・合理化、負担の分散化 |
| 市民活動団体 | 人材の育成・確保、活動の発表機会の確保、活動等の情報発信 |
| 市職員 | 協働への理解、協働の進め方やノウハウなどの習得 |

- 多様な主体による協働を進めるため、令和2年6月に計画を全面改定し、9つの協働の仕組みづくりを位置付け、取組を推進
- 特に担い手不足が深刻化する中で、多様な人が関わりやすい活動の推進を重視して取り組んできたものの、仕組みが定着しているとは言い難い状況
- アンケート調査結果等から、担い手不足は依然として大きな課題であるため、引き続き多様な関わりを増やすことが重要
- 社会状況やこれまでの取組などを踏まえ、地域課題の解決に必要な施策として、5つの協働の仕組みづくりに集約

基本方針

この計画は、計画策定後、関係する様々な主体による議論を経て基本施策ごとの事業を位置付け、様々な主体の協働・連携により、段階的に事業を実施していく協働でつくるプロセスを重視した計画

基本施策

| | 仕組みづくり | 内容 | 主な事業 |
|---|-------------------------|--|-------------------|
| 1 | みんなで話し合う仕組みづくり | 話し合いは、協働を円滑に進めるだけでなく、参加者の主体性を高め、活動の活性化を促す上でも非常に重要であるため、みんなが意見を自由に出し合える、話し合いの仕組みをつくる | 話し合いの場づくりの普及啓発・支援 |
| 2 | 一人ひとりの「やってみよう」を育む仕組みづくり | 何気ない思いが形になることで、「やってみよう」という前向きな気持ちが生まれ、主体性が高まっていくため、そうした気持ちを育んでいく仕組みをつくる | 市民の思いを共有できる場づくり |
| 3 | 関わりやすさで人を呼び込む仕組みづくり | 団体等で多様な人に関わってもらうには、開かれた環境をつくり、関わる心理的なハードルを下げる必要があるため、関わりやすい環境をつくり、人を呼び込む仕組みをつくる | 関わりやすい環境づくりの推進 |
| 4 | 多様な主体をつなげる・支える仕組みづくり | 多様な主体の協働を進めるため、つなぎ支援や伴走支援などの中間支援機能の強化・充実を図り、多様な主体をつなげる・支える仕組みをつくる | 中間支援機能の強化・充実 |
| 5 | これからの共有の形を広める仕組みづくり | 地域内には活用されていない資源があるため、シェアリングエコノミー※の普及やクラウドファンディングなどお金を共有して活動を支援する流れの創出など、これからの共有の形を広める仕組みをつくる | シェアリングエコノミーの普及 |

※シェアリングエコノミー：個人が保有する場所・モノ・人・スキル・乗り物・お金などの使われていない資産を、インターネットを使って個人間で貸借や売買、交換することで、有効活用する新しい経済の動き

計画の指標

- 関わりの多様化や各仕組みづくりに基づく取組状況、さらに仕組みづくりを通じた市民の協働への意識や市民活動の変化を捉えるため、定性的・定量的な指標を設定

【定性的な指標】

【定量的な指標】

| 指標 | 把握方法 | 指標 | 現状 | 目標 |
|------------------|----------------------|------------------------------|--------------|---------------|
| | | | R5 (2023) | R11 (2029) |
| 関わる人や関わり方の多様化 | ・ヒアリング ・アンケート調査 | 市民協働センターの相談受付件数 | 64 | 80 |
| みんなで話し合う場への見直し状況 | ・ヒアリング | 市民協働事業のエントリーシート提出件数 | 21 | 30 |
| シェアリングエコノミーの普及状況 | ・ヒアリング ・サービスの登録件数 | 市民まちづくりセンターの利用件数※人口1,000人あたり | 258 | 270 |

計画の推進に向けて

- 基本施策を着実に進めていくため、様々な主体が柔軟な形で議論できる場として、「(仮称)みんながミーティング」を定期的開催
- 必要に応じて、専門家等にも相談を行いながら推進

評価と見直し

- 計画の進捗状況の評価と見直しに関する全般的な議論は、長浜市市民協働推進会議が行う